

まるごと特集

Ruby

NIKKEL SOFTWARE 2007.8

プロローグ

だから今Ruby

—— 14年を経て、Web近未来へ羽ばたく

p.42

Part1

特別対談(前編) まつもとゆきひろ×結城浩

「まつもとは言語のことをよく考えている」

p.44

Part2

Rubyはもう現実だ

—— 先進企業10社にみる最新導入事例

p.48

Part3

ゼロからはじめる!

Rubyプログラミング超入門

p.56

Part4

特別対談(後編) まつもとゆきひろ×結城浩

「Rubyは21世紀のBASIC」

p.64

Part5

Ruby on Rails入門

Railsで実現するシンプルな
Webプログラミング

p.68

Column

日本Ruby会議2007レポート

p.54

編集部厳選オススメRuby書籍5冊

p.78

COBOLプログラマがRubyに初挑戦! 短期集中連載「RetroTube開発記」(80ページ)も併せてお読みください。

大作戦

大波に乗るなら今!

「Javaに比べて環境構築が非常にラク」「ソフトウェアの開発生産性が5倍になった」
——いまこんな声が巻き起こっているのが、日本生まれのプログラミング言語「Ruby」
です。Rubyは10年以上前に開発された言語ですが、いま大きなブームを巻き起こし
ています。Javaに続くメインストリームの言語になると見る向きも少なくありません。

今号では、総力をあげてRubyまるごと大特集をお届けします。Rubyの開発者であ
るまつもとゆきひろ氏と、PerlやJavaの書籍、本誌連載でおなじみの結城浩氏との対
談から、10社におけるRubyの導入事例、Ruby超入門、開発フレームワーク「Ruby on
Rails」の利用方法までカバーします。ぜひこの特集をきっかけに、Enjoy Ruby!!

だから今Ruby

14年を経て、Web近未来へ羽ばたく

JavaとRubyの歩み

現在Webシステム開発で広く利用されているJavaと、同じ分野で注目を集めているRubyの歴史を並べてみました。どちらのプログラミング言語も、はじまりはWebという概念がほとんど知られていなかった1990年代前半です。

Java

1996年ごろから、Web閲覧が一般的に。企業情報システムのWebアプリケーション化も始まる

1990年代前半の企業情報システムは、クライアント/サーバーというシステム形態を採用して、メインフレームから、UNIXやWindowsへダウンサイジングする動きが活発だった

1996年2月

米Sun Microsystems, Java開発環境のJDK 1.0を公開

1995年5月

Sun World ExpoのデベロッパーカンファレンスでOakをJavaと改称

1991年ごろ

James Gosling氏, オブジェクト指向言語のOakを開発

1993年2月

まつもとゆきひろ氏 Rubyを開発

1995年12月

まつもと氏, ネットニュースのfj.sourcesでruby 0.95を公開

2000年ごろ, 企業におけるJavaの大規模開発事例が増え始める

1999年6月

企業情報システム向けのJava開発プラットフォームJ2EEを公開

JavaServer Faces, Velocity, Tapestryや商用の製品を含め, JavaのWebアプリケーション・フレームワークが乱立する

2001年6月

Apache Software Foundation, Struts 1.0をリリース

2001年7月

ただただし氏, Rubyで書かれたWeb日記CGIのtDiary 1.0.0をリリース。Ruby初のキラアプリに

1999年10月

初のRuby書籍「オブジェクト指向言語Ruby」, アスキーから発行

第1次Rubyブーム

2001年ごろから, ネットで日記を書く人が増える。日記CGIの一つtDiaryが人気を集める。この人気により, レンタル・サーバーでのRuby採用数が増加する。Ruby書籍の出版も相次ぐ

Web黎明期

Web重厚長大期

大手ベンダーRubyへ参入

米Microsoft, 米Sun Microsystems, 米CodeGearなど、大手開発ツール・ベンダーが一斉にRubyへ乗り出す

2007年12月

Ruby 1.9.1リリース予定。
性能向上を予定

2007年後半

米CodeGear, Ruby on Rails
向けの開発環境をリリース予定

2007年6月

米Sun Microsystems, Java VM上で動作
するRubyの処理系JRuby 1.0をリリース

2007年6月

日本Ruby会議2007開催。
およそ400人が参加

2007年4月

米Microsoft, Webブラウザのプラグインとして動作する
アプリ実行環境Silverlightの1.1アルファ版をリリース。
DLRと呼ぶRubyなどの動作環境を用意する予定

第2次Rubyブーム

2006年ごろから、楽天やニフティなどの大手ネット企業や、NRI, TISなどの大手システム・インテグレータなどが、相次いでRuby on Railsを採用。小規模のシステムから、RailsによるWebアプリケーションの構築を始める。Ruby on Railsの認知度向上に伴い、Rubyユーザーが増える

2006年11月

米Sun Microsystems,
Javaをオープンソースに

2004年3月

Rod Johnson氏ら, Spring
Framework 1.0をリリース

2006年10月

JRuby開発者のCharles Nutter氏と
Thomas Enebo氏,
米Sun Microsystemsに入社

2006年6月

日本Rubyカンファレンス 2006開催。
300人分のチケットがすぐに売り切れる

2004年7月

David Heinemeier Hansson氏,
Ruby on Rails 0.5をリリース。
2005年12月にはバージョンを1.0に



Ruby

この図から読み取れる内容で、強調したいことは二つあります。一つは、オープンソースで無償のRubyが、大きな資本の支えがなくても、開発を継続してきた14年間の実績です。これからもRubyの開発は続いていくことでしょう。もう一つは、Rubyというプログラミング言語が、tDiaryやRuby on Rails (以下Rail) といった、Rubyのうえで作られた、アプリケーションやフレームワークによって、ユーザーやプログラマに知られていったことです。Rails開発者のDavid Heinemeier Hansson氏は、Rubyを選んだ理由に「Rubyは美しいコードを書ける、プログラマをハッピーにする言語だと感じた」と語っています。Rubyの魅力そのものが、Rubyの採用を後押ししているのは間違いありません。

では、その“Rubyの魅力”とはなんのでしょうか。本特集は、

このRubyの魅力をも、様々な立場の人に感じてもらうために企画しました。Part1とPart4では、Rubyの父まつもとゆきひろ氏と、JavaやPerlの書籍で著名な結城浩氏の対談を設けました。Part2では「Rubyはもう現実だ」と題して、先進企業10社でのRuby採用の実際を見ていきます。Part3ではこれからRubyに取り組むプログラマを対象に、Ruby処理系のインストールから簡単なプログラミングまでをていねいに解説します。Part5は、大人気のWebアプリケーション・フレームワークRuby on Railsの解説です。

まつもと氏はRubyのコンセプトを「Enjoy Programming」(たのしいプログラミング)として、快適にプログラミングできることを目指したと述べています。ぜひ、Rubyの魅力を見つけてください。(編集部)